

# オーストラリアの利下げとGDP成長率について

2012年6月8日

6月5日、オーストラリア準備銀行は金融政策決定会合で政策金利を0.25%引き下げ、従来の3.75%から3.50%としました。政策金利の引き下げは前月に続き、2カ月連続です。翌6月6日、オーストラリア統計局は、第1四半期の実質GDP(国内総生産)の伸び率が、前期比+1.3%、前年同期比+4.3%になったと発表しました。

## 《予想通りの利下げ、予想を上回る成長》

政策金利の引き下げは、ほぼ市場の予想通りでしたが、その背景には①欧州債務問題、中国の経済成長減速など世界経済の先行き不透明感が強まっていること、②豪州経済の成長が緩やかであること、③オーストラリアの物価上昇率(インフレ率)が落ち着いていることなどがあげられます。

第1四半期の実質GDP伸び率の前期比+1.3%は、市場予想(同+0.6%)を上回る結果となりました。個人消費が堅調であったこと、中国等の新興国向け資源輸出が好調であったことを背景に鉱業セクターなどの設備投資が増加したことなどが高い伸び率に寄与したと考えられます。

## 《今後の見通し》

### ●景気見通し

IMF(国際通貨基金)では、オーストラリア経済は、2012年には+3.0%、2013年には+3.5%まで回復すると予測しています(IMF World Economic Outlook 2012年4月)。

2011年にはGDP成長率が+2.0%と減速しましたが、今回の政策金利引き下げが、国内の景気改善に寄与するとみられること、景気減速が懸念された輸出先の中国で景気下支えのために利下げが実施されるなど今後も追加の景気対策が期待されること、2012年第1四半期は前期比で+1.3%と成長力が損なわれていなかったことなどから、今後も持続的な経済成長が期待されます。

### ●為替見通し

オーストラリアドルは5月以降、欧州債務問題の再燃、国内および中国の景気減速懸念、政策金利引き下げ観測などから、軟調な展開が続いていました。

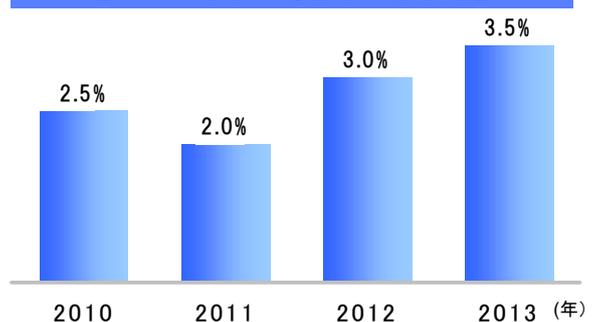
しかし、同国は先進国としては金利水準が高いこと、国債の格付けがAAAと信用力が高いことなどから、投資先としての魅力は依然として高く、資源国としての優位性もあることから、欧州債務問題の落ち着きや中国経済の持ち直しとともに、反発に向かうとみえています。

《オーストラリアの政策金利》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《オーストラリアの実質GDP成長率》



(期間 2010年～2013年 2012年、2013年は予測値)  
出所：IMFデータより明治安田アセットマネジメント作成

《オーストラリアドルの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成 (年/月)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。